

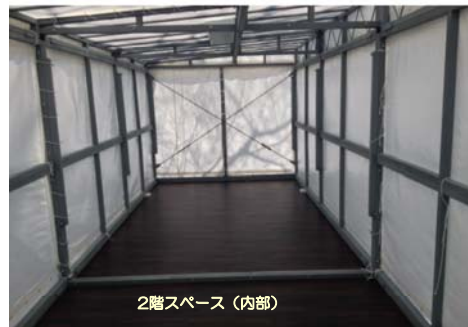
# 被災地コミュニティ構築のための

# 首都大版トレーラーハウス「MOBIPO」

## コンセプト

「MOBIPO」は、首都直下地震を想定して設計された2階建てに展開可能な首都大学東京オリジナルのトレーラーハウス（Mobility Port）です。

震災、復旧、そして復興時において、被災地コミュニティに必要とされる用途と備えるべき機能について議論した結果、被災後は移動する「情報拠点」として機能するとともに、首都圏という人口あたりの平地面積が小さいことより「2階建て展開機能」と「可搬性」を有し、住居や店舗に対応できる開閉自在な「オープンデッキ」、その機能（住居、喫茶・コンビニ、病院など）を示す「サインボード」を備える右写真のトレーラーハウスを設計するに至りました。



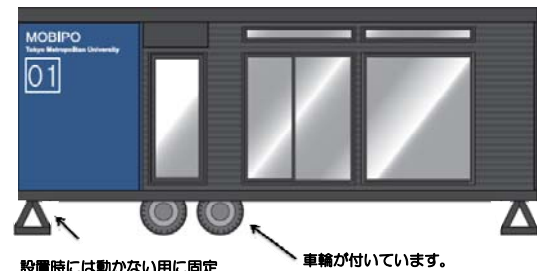
## MOBIPOの特徴

- ✓移動時は1階建、設置時は2階建。
  - 許可なしで道路を牽引可能(輸送可能)。(輸送時：W8m×高さ3.5m×D2.5m)
- ✓集合時に連携可能。
  - 異なる機能の「MOBIPO」を組み合わせることで大きな空間として利用可能。



## トレーラーハウスとは？

- ・牽引車がないと移動できません（自走できません）。
- ・建築基準法の適用外です。建築物ではなく車両にあたるため、建築許可が不要です。
- ・不動産ではないので、固定資産税がかかりません。
- ・車輪がついた「プレハブ住宅」とも言われています。
- ・被災地において、仮設住宅、店舗、図書館、宿泊施設等として利用されています。



※設置場所で、各種インフラ（電気・ガス・上下水道）に接続することができます。